

「ハタラクも暮らしも楽しみたい、は贅沢ですか？

～多様性理解は難しい？共感はできなくても理解が進む地域へ！～

講座の内容を一部ご紹介

5/27日（水）、学生向けのライフデザイン講座や、女性の起業支援等、仕事と暮らしの好循環をテーマに活動している堀田真奈さんを講師にお招きして、講座を開催しました。

これからの働き方や地域づくりに欠かすことのできない要素である、**ダイバーシティ社会**（多様性社会。幅広く性質の異なる人たちが共に活躍する社会）と**インクルージョン**（個々が持つ特有のスキルや経験、また価値観などが認められ、活用される社会・組織を目指すもの）について、より実践的に理解することのできるお話をしてくださいました。

1. 「共感はできなくても理解はする」
2. 「自分の理想・べきを言葉にできる」
3. 「自分とは違う」場所で交流を増やす



【講師】

NPO法人 ワークライフ・コラボ  
代表 堀田 真奈 さん

上記の三項目を挙げ、「自分を育てていくことでマチも育つ」とまとめてくださった堀田さん。新しい働き方や、みんなが暮らしやすい地域づくりをめざすためには、多様な人たちと、互いの理想や、「こうあるべき」というコア・ビリーフについて対話し、より良い関係を築いていくことが大切なのだと感じました。

仕事や子育ての中で感じたモヤモヤが、現在の活動につながっていると、堀田さんご自身の経験も話して下さり、これからの生き方にたいへん参考になる講座となりました。

感想(一部抜粋)

様々な具体的な例や考える質問があり、その都度考えながら参加できてよかったです。コアビリーフについて自分のことや周りの人のことを理解することにつなげていきたいと思えます。ありがとうございます。(30代・女性)

世の中に共感できないことはたくさんあるが、理解できるように努めていきたい。(60代・男性)

“学びなおし”という講座の目的に合うとてもいい内容でした。バイアスを解きほぐすために、お互いの「べき」を知り、言葉にすること、私自身も変わる範囲を広く持っていきたいと思えます。堀田さん、素晴らしかったです。(70代・女性)

「性別にとらわれず生きること～学校教育と社会教育を通じて～」

## 講座の内容を一部ご紹介

6/27（土）、長年、教員を務めてきた当センター館長の小椋由紀子が、暮らしやすい社会に不可欠な男女共同参画の視点についてお話いたしました。

生物学的性別を「sex」というのに対し、社会的・文化的に作られた性別を「gender」といいます。

家族の中での長男の役割など慣習として残っている部分もあり、女性はこうあるべき、男性はこあるべきという、固定的性別役割分担意識は無意識に刷り込まれています。

## ▼男女共同参画社会の定義▼

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に、責任を担うべき社会」です。（男女共同参画社会基本法第2条）平成11年

男女共同参画では、一人ひとりが自分の考えをしっかりと持ち、意見を述べること、そして相手の意見をきくことが大切です。小椋館長は学校とコムズに勤めてきた経験から、互いの良さを認め合い、それぞれの良さを出し合うことがコミュニケーションをする上で大切であるという点で、中学教育と男女共同参画は一緒だと感じたそうです。

今回の講座でも、第2回目の堀田さんのお話同様、互いを尊重し合った対話が大切だというお話がありました。誰もが暮らしやすい地域づくりのヒントとなるような情報を、これからもコムズから発信できればと思っています。



【講師】

松山市男女共同参画推進センター館長 小椋 由紀子 さん

## 感想(一部抜粋)

小椋館長らしいまとめ方がとても新鮮でした。中学校での最近のアンケート結果も参考になりました。（女性・70代）

実践にもとづくお話大変良かったです。わかりやすかったです。（女性・70代）

自分の生き方を考え直す良い機会になりました。各項目ごとに参加者の意見交換があればよかったですが、コロナ対策のためおつかしいと思います。8/1の中学校編はぜひ参加させてもらえしたいと思います。（男性・50代）